

2024 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	生物生産学部・生物生産学科・1 年
------------	-------------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私は、プログラムを通して異なる文化、言語を持つ人々とたくさん交流することができました。そもそも、このプログラムに応募したきっかけは、異文化に触れあう中で、自分自身の教養を深めること、言語能力の向上のきっかけを作ることが目的でした。海外経験の少ない私にとって、留学中すべてのことが新鮮で貴重な体験になりました。最も重要だなと感じたことは、やはり言語です。しかし、言語といっても特に **speaking** 能力が大切だと感じます。現地の人と関わっていくと、もっとコミュニケーションをとりたいのに簡単な英語しか話せないというもどかしい場面が多々ありました。このような経験から、英語の勉強にこれから力を注いでいきたいと考えています。そして、当初の目標でもあった様々な視点を持つことができるようになりました。これは、形としてではなく感覚として身に着けることができ、これからの私生活をより豊かにできるのではないかと考えています。今回は 10 日間という短い留学でしたが、さらに長期の留学に行って自分自身を磨いていきたいなと思いました。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

現地の学生さんが、常に一緒に行動してくれていたのもとても心強かったです。ランチ時はもちろん、授業終わりにお出かけに誘ってくれたり、学生さんのおもてなしにとっても感謝しています。渡航前は、ここまで現地の方と仲良くなれると思っていなかったのも、とても嬉しかったです。また、予定がかなり詰まっていたので、限られた時間の中で、私たちが十分に学べるような構成になっていました。多くの経験ができたのもとても満足でしたが、少し体力的にしんどい部分もありました。もう少し余裕のある日程にしていただけると、ありがたいです。あと、ホテルが治安の悪い場所にあったので改善していただきたいです。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

勇気が出ず海外に行くことを迷っている人にとって、有益なプログラムだと思います。私も、大学入学前から海外に行ってみたいという想いがあったので、このプログラムを利用しました。しっかりと予定が組まれているのでやることに困らないし、安全面的にも安心して楽しむことができると思います。私は、英語が苦手な海外への興味だけで申し込みました。現地で、英語を喋れないことで困る場面もありましたが、周りの学生さんや引率の先生方もフォローしてくださるので何とかかなります!!ぜひ、海外行ってみてください!

2024 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	理学部・生物科学科・2 年
------------	---------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私は今回、START プログラムでマレーシアへ行かせて頂き、特に多文化社会を成り立たせている人々の意識について学ばせて頂きました。

その意識とは、違うことが当たり前ということです。マレーシアでは主にマレー系、中華系、インド系の人々が暮らしています。彼らは見た目も違ければ、英語のアクセントも違います。しかし、彼らは異なるということを一切気にせず打ち解け合っていました。そこで重要となるのが、マレーシアの人々が持つお互いの異なる文化を受け入れ楽しむ力や、多言語を話せること、見た目に対する差別意識の無さだということ、現地の学生との交流を通じて学びました。

マレーシアに行く前、僕はマレーシアではマレーシア独自のお店が立ち並んでいる街並みを想像していましたが、そうではありませんでした。中華系のレストランやタイのレストラン、日本のラーメン屋さんまで様々な国のお店がマレーシアにはありました。文化の違いをそのままの形で受け入れ、お互いに楽しみ合うことが当たり前となっている社会、これそのものが多文化社会なのではないかと感じました。

また、多くのマレーシア人は多言語を話せるという点です。現地の学生の中には日本語で意思疎通できる人たちもいました。マレーシア人はその時々で使う言語を使い分け、多くの民族の人々と語らうことができるため、相手が伝えたいことをそのままのニュアンスで受け止め、理解することができるのだと思いました。

そして、良い意味で他人の見た目をあまり気にしないということです。現地で知り合ったマレーシア人の友人と電車に乗っている際、車内に風変わりな服装をした人がいました。その際、一緒にいた友人が、マレーシア人は他人の見た目をあまり気にしないから、電車や公共の場においても風変わりな見た目をした人をよく見かけると教えてくれました。マレーシアでは民族の違いだけでなく、ありのままの自分、になりたい自分といった個性を自由に表現していても周りの人たちは受け入れる意識があるということを感じることができました。このような見た目による差別意識の低さも、多文化社会を成り立たせている一因だと学びました。

今回の留学を通して、様々な観点から、どのようにマレーシアの多文化社会が成り立っているのか学ぶことができました。グローバル化が進む現代において、異なる文化に触れることはより一層増えてくると考えられます。今回学んだことをもとに、英語だけでなく様々な言語を学習していくことでその国の人々の思いを直接感じ取り、異なる民族や価値観の人々の見た目の違いを心の底から受け入れられる自分になることで、多様な文化

に対する理解を深め、将来世界で活躍することができる人材へ成長していく決意です。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

今回私は東南アジアに行くのが初めてであり、分からないことが沢山ありましたが、現地の学生や先生、引率の先生やスタッフの方々の支えにより、充実した日々を過ごすことができました。特に、現地の学生にクアラルンプールを案内していただき、マレーシアの街並みや食を楽しめたことが深い思い出として残っています。私が今回マレーシアに行って良かったと思えた一番の理由はマレーシアの地に多くの友人をつくることができたことです。

また、現地で受講した授業では、マレーシアの多文化社会について、食や宗教、伝統文化、環境、日本との関係性など今まで知らなかったことを英語で学ぶことができ、マレーシアという日本以外の国に関する多くの知識を増やすことができました。

また今回のプログラム中、私は発熱してしまい、2日間プログラムに参加することができませんでした。体調が良くなり始めた際も気持ち的にとても憂鬱でした。しかし、復帰後、現地の学生や先生が繰り返し温かい言葉をかけてくれ、マレーシアの方たちの優しさをより深く感じることができました。そのおかげで今では海外で発熱した経験を良い経験だったとさえ感じる事ができています。現地の学生や先生にはとても感謝しています。また、現地の学生はボランティアで広島大学の学生を案内してくれ、忙しい大学生活の中、時間を使ってくれたことに感謝しています。

また、プログラムの事前講義ではマレーシアにはトイレにトイレットペーパーがないことがあるといった生活に関わることや、どのような民俗の人々が暮らし、どのような観光地があるのかなどを知ることができ、これにより現地訪問の際もより充実した日々を過ごすことができたと感じています。そして事後講義で行ったマレーシアの社会問題とその解決方法のプレゼンテーションを通して、異国の地での実体験を通して社会問題をどのようにして解決していくかを考えることができ、今後社会課題に向き合っていくための良い経験となりました。

現地で発熱してしまったものの、全体を通して、充実した日々を過ごすことができ、とても良い経験になったと感じています。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

インフルエンザとコロナウイルスの検査キットを持参していくことをおすすめします。現地に行った際、私は発熱してしまいましたが、インフルエンザとコロナウイルスの検査キットを持参していたことで、直ちに検査することができました。

また、日本食を持参することをおすすめします。療養中、私は基本的に普段から食べ慣れている日本食を食べていました。普段から食べ慣れている物を持参することで、体にあった物を食べられますし、気持ち的に安心することができます。また、自身で食べること

ができなかった場合は現地の学生に対するお土産としても用いることができるため、持参をおすすめします。

また水道水が飲めない国では水を買うことが必須になるので、現地のホテルに着いたら、できるだけ早めに近くのスーパーやコンビニまでの行き方を把握することをおすすめします。